

雑誌「病院図書館」読者アンケート結果報告

瀬戸 嘉枝

I. はじめに

近畿病院図書室協議会の機関誌「病院図書室」(現「病院図書館」)は1980年に創刊された。当初は年刊誌であったが、1992年12巻からは会報と統合され、年4回発行の季刊誌となった。その後、2000年20巻より「病院図書館」と誌名変更し、現在に至っている。

機関誌は出版社の発行する雑誌とは違い、読者獲得のための激しい競争もないが、会員のための雑誌としての責任がある。そこで「病院図書館」の読者の状況や興味などを調査し、読者が何を求めているかをさぐり、今後の誌面づくりの参考にすることを目的とし、アンケート調査を実施した。

II. 方法

1. 調査の対象

本調査は、近畿病院図書室協議会会員と「病院図書館」の購読会員、および本誌の寄贈機関を調査対象とした。ただし、原則として個人回答とし、1機関からの複数回答も可とした。

2. 調査の実施方法

アンケート案は編集部で検討し、できるだけ簡潔な内容になるようA4サイズ1枚にまとめた(図1)。アンケート用紙の配布は「病院図書館」21巻4号送付時に同封することにし、回収締切は用紙到着から約3週間後の平成13年12月10日とした。回答用紙の回収についてはFAXまたは郵送でお願いした。

III. アンケート結果

1. 回収率について

アンケート用紙は、会員122、購読会員67、寄贈23の合計212機関に配布した。1機関複数回答の場合も、回収率は回答の機関数で出した。

全体の回収率は27.3%で、会員機関の回収率は34.4%(42機関)、会員外では17.7%(16機関)であった。ここで特に会員からの回収率が、「平成12年度近畿病院図書室協議会統計調査」(以下「平成12年度統計調査」)の回収率62%と比べて、かなり低いという結果になった。

2. 立場と経験年数について

まず回答者の立場と経験年数を尋ねたところ、61%が図書室専任で、36%が兼任であり、専任が上回っていた(図2)。ちなみに「平成12年度統計調査」では、専任48%、兼任52%と、兼任の方が若干上回っていたことを考慮すると、「病院図書館」の読者は図書室専任者に多いということが考えられる。また同調査によると、担当者が1名という施設は77%となっていた。編集部ではこのような現状も理解した上で、誌面づくりを考える必要があると感じた。

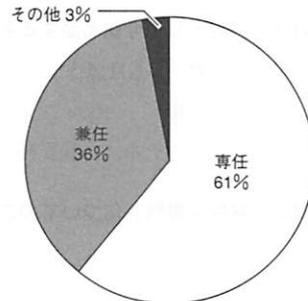


図2. あなたの立場をお答えください

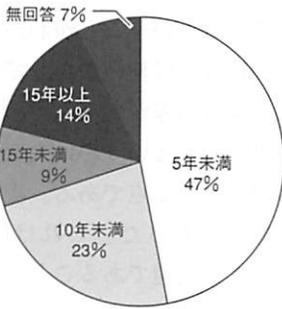


図3. 会員の経験年数

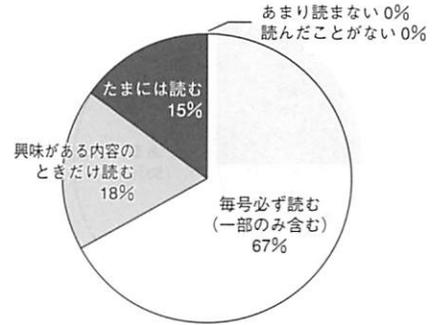


図5. 雑誌「病院図書館」を読んでいますか？

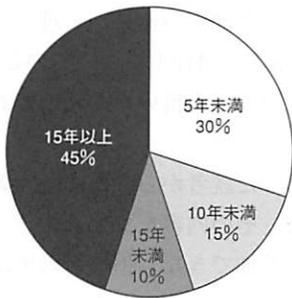


図4. 会員外の経験年数

会員の経験年数については47%が5年未満という結果であった(図3)。一方、会員外では経験年数15年以上の人が45%を占めており、5年未満は30%であった(図4)。

3. 雑誌「病院図書館」を読んでいますか？ (図5)

毎号必ず読む(一部のみもここに含む)という回答が67%という高い割合であった。「あまり読まない」と「読んだことがない」が0であったが、アンケートの回収率を考えると単純に喜んでいられない。未回収の約70%がこのどちらかに入る可能性もあると考えられるからである。

読まれている内容については、特集記事が最も多かった(図6)。会員執筆の連載記事や、会員紹介、会員エッセイなど、会員による記事がどれも上位に入っていたことは嬉しい結果であった。また、特に注目したいのは「その他」の17名だが、これはその他の記述欄に「全部読む」という記載があった人数である。その「全部

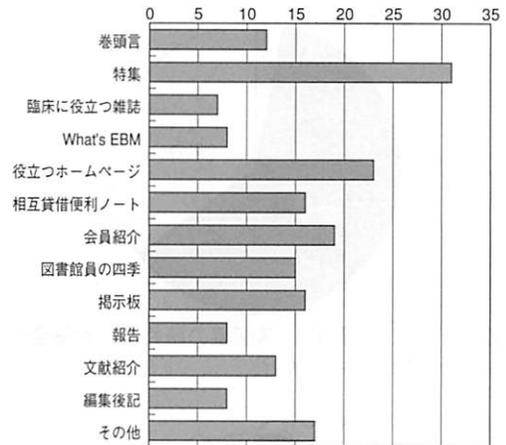


図6. 読んでいる記事に○をつけてください

読む」が上位というの嬉しい結果であった。

4. 記事の内容を実際に現場で活用した(参考にした)ことがありますか？(図7)

この結果を見ると、75%の人が「病院図書館」の記事をなんらかの形で仕事上の参考にしたと回答している。これは、現場で役立つ内容を目指している編集部としては嬉しい結果であった。これからも読者に幅広い情報を提供していきたいと思う。

5. この1年間に、近畿病院図書室協議会の研修会または勉強会に参加しましたか？(図8)

この結果は近畿病院図書室協議会が全国規模の協議会であること、会員が集中している地域が少ないという特徴が出ていると思う。参加しなかった理由のトップが「遠距離のため」というのがそれをよく表している(図9)。「忙しくて休めなかった」という理由は、兼任やひとり

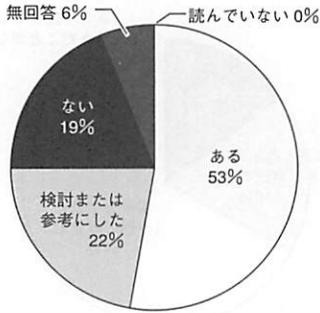


図7. 記事の内容を実務に活用(参考にした) ことがありますか?

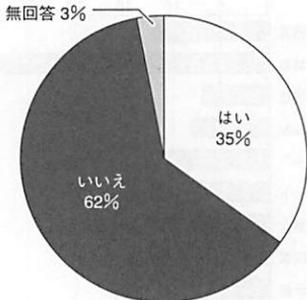


図8. この1年間に、病図協の研修会、勉強会に参加しましたか?

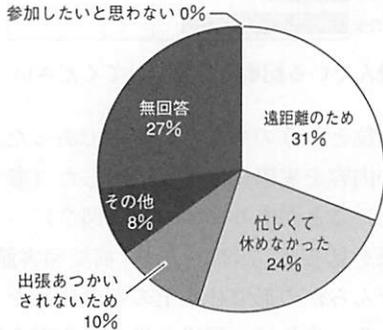


図9. 参加しなかった理由をお選びください

職場の状況から、納得できる理由だと思う。「平成12年度統計調査」でも、回答のあった74の施設のうち、46の施設の担当者から近畿病院図書室協議会の研修会に参加できなかったという回答が出ていた。

6. 雑誌の内容として今後希望するものをお選びください(複数回答可)(図10)

今後どのような内容を希望するかについては、「インターネット」「文献検索」「電子ジャーナル」が同票でトップだった。やはり、コン

ピュータ、インターネット関連分野が担当者の最重要課題であるということがわかった。これらの項目は、理解して使いこなしている人と初心者とではかなりの差があり、そのどちらも満足させる記事づくりというのは大変難しく、編集会議でも問題になる点である。次に多いのは「資料の廃棄」であった。これは図書館員にとって常に大きな問題であることがわかる。次に「利用者教育」であったが、これについてもトップ項目に関連があるように思われる。また、その次の「研修会・勉強会の内容」というのは、研修会参加率の結果から理解できる。

7. 雑誌「病院図書館」についてのご意見など、どんな内容でも構いませんのでお聞かせください(図11)

回答のあった読者から、たくさんのご意見をいただいた。その内容をまとめた。

研修会に参加できない担当者の中には、この雑誌で勉強しているという人もいる。そのような人のために、研修会の具体的な内容をもっと掲載できるよう、検討したい。また、ベテランにも初心者にも役立つ雑誌づくり、というのは本当に大きな課題ではあるが、これは常に頭に入れておきたいと思う。さらに、会員外の読者からの意見も大切に、購読会員にとっても役

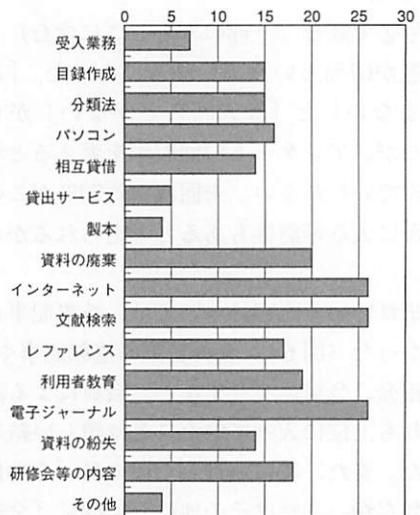


図10. 雑誌の内容として今後希望するもの

- 会員から**
- 研修会に関する記事載せてほしい
 - 日常業務の詳細を具体的に掲載してほしい
 - 専門的な内容、初心者がかかる内容、その両方を取り入れた誌面を希望する
 - 図書室担当者がどれくらい電子ジャーナルに関わっているか知りたい
 - 経費に見合った内容かどうかを考えることがある
 - 初心者にとっては特集が難しく実用的でないように感じる
 - 内容が堅い、もう少し楽しめるコーナーがあってもいいのではないか
 - 「図書館員の四季」は図書室と関連させた内容を依頼してみてもどうだろうか
 - 「図書室担当者として、やってはいけないこと」のような内容も載せてほしい
 - 実務的な内容が多く嬉しい
 - わからないことが発生した時に参考になっている
 - 特集が充実している
 - 相互貸借の方法を再確認できる
- 会員外から**
- 「図書館員の四季」コーナーで個人の顔がわかり、実際に会う時に参考になる
 - 「病院図書館員になるには」という特集を組んでほしい
 - 患者サービスについての記事をもっと掲載してほしい
 - 病院図書室への就職情報を掲載してほしい

図11. 雑誌「病院図書館」へのご意見

立つ存在になれるよう努力したい。

今回はきびしい意見も頂戴した。今後ともどんどんご指摘いただき、編集部にも新風を入れていただきたい。嬉しい感想も頂戴した。これは今後の励みにしたいと思う。

IV. まとめ

今回のアンケート調査で一番感じたことは、回収率の低さだ。これは会員担当者の現状を把握するのに大いに役立ったと思う。

回答者の66.7%が毎号必ず目を通すという結果は、回収率が低かったとはいえ、とても嬉しい結果だった。会員執筆による記事がよく読まれていることがわかったのも、今後の編集方針の参考になった。また、希望する内容がインターネット関連に集中していることは見逃せない事実であった。他の図書館関連雑誌にもインターネット記事が多いと思っていたが、さらにもっと知りたい人が多いのが現状だった。

できるだけわかりやすい記事を掲載したいと思っているが、問題は書き手である。できればベテランの担当者に執筆をお願いしたいと思うのだが、ベテランの人は忙しそうで、なかなか頼みにくいというのが悩みの種だ。しかし、ベ

テランばかりに頼っていては後任がちっとも育たないという意見もある。これらのことも乗り越えていかなければいけない大きな課題だ。

また、文献検索、利用者教育、資料の廃棄などは常に話題となっていることだが、これについては事例報告なども役立つかもしれない。事例報告であれば、ベテランに限らず初心者でも、どんな状況の人でも記事を書くことが可能ではないかと考える。

V. おわりに

会というものは大きくなればなるほど、活動する人が限られていく傾向があると思う。確かに全員参加ということは現実にはかなり難しい。とすれば機関誌「病院図書館」は、研修会など協議会の活動に直接参加できない人のための、情報誌としての役割も持たなければいけないと感じている。

また、ひとり職場や兼任で忙しく、「病院図書館」を読んでいるヒマ?がないという担当者もいるだろう。そのような人に少しでも関心を向けてもらうにはどうしたらよいか。その対策のひとつとして、会員にどんどん参加してもらおうということが考えられる。会員による記事での参加はとても重要だと思う。記事を書くことによって、自分の仕事をあらためて見直したり、それを読んだ人から意見や助言をもらうことができるかもしれない。また、「会員紹介」や「図書館員の四季」での記事は、それを読むことを楽しみにしている読者も多い。

今回のアンケート結果から、忙しい読者が気持ちよく参加できるようにすることも編集部の大事な役目ではないかと思った。

今後とも、「病院図書館」をどうぞよろしくお願いします！

参考資料

- 1) 近畿病院図書室協議会 図書室年次統計調査報告書 平成12年度(2000年4月~2001年3月) 近畿病院図書室協議会;2002.